

# 記述力向上を促す授業づくり

学籍番号 219325

氏名 金丸真也

主指導教員 岡博昭

副指導教員 種田将祠

## 1. 背景

### 1.1 研究背景と目的

経済協力開発機構(OECD)は、国際的な学力到達調査(PISAテスト)において、日本の高校生は問題文や資料から情報を抽出・理解し、自分の意見を述べるといった記述力が年々衰退しており、この衰退は偶然的なものではなく、有意的なものであると述べている。この記述力低下の最大の要因として記述問題の無回答率の高さが挙げられている。PISAテストで実施されている数学的リテラシー、科学的リテラシー、読解力の3分野の中でも、特に記述問題が多い読解力分野の点数が他国に比べて低くなっている。

### 1.2 記述力の重要性和記述力低下に伴う今後

1990年から大学入学を志願する者の高等学校段階における基礎学的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、各大学の2次試験に先立って行ってきたセンター試験が廃止され、翌年の2021年からセンター試験に変わるテストとして大学入学共通テストが実施されている。この大学入学共通テストでは、記述式問題の導入が第一回実施前から検討されている。この記述式問題の導入には、①解答を選択肢ではなく、自ら考えることで、より主体的な思考力・判断力・表現力の発揮が期待できる。②文や文章を書いたりすることを通じて思考のプロセスがより自覚的なものとなることにより、より論理的にかつ思考力・表現力の期待が発揮できる。③記述により自らまとめた新しい考えを表現させることにより、思考力や表現力の発揮が期待でき、特に文や文章の作成に当たって、目的に応じて適切な表現様式を用いるなど、表現力の発揮が期待できる。これらのような目的が掲げられていたが、採点者の確保の困難、受験生の自己採点の困難、採点ミスの可能性などが原因で導入されなかった。しかし、萩生田文部科学大臣は、記述式問題が果たす役割は重要であるため、各大学で実施されている個別選抜での積極的な活用を求めている。このように記述式問題の導入には、多くの困難があるものの、積極的な活用が促されるほど記述式問題の果たす役割は大きいことから記述力の重要性が分かる。

2000年から始まったPISAテストの結果では、日本は比較的上位に位置している。しかし、この結果は数学的リテラシー、科学的リテラシー、読解力の3分野の合計である。日本は数学的リテラシー、科学的リテラシーの結果が特に良く、記述式問題が多い読解力分野の点数は他の2分野に比べ低い。さらに各分野、点数が2012年まで増加していたが、2012年以降は減少

し続けている。今後もこの点数の減少は進むと考えられているため、直ちに日本の高校生の記述力向上を促す必要があると考えた。

## 2. 研究方法

筆者は約2年間の実習で、物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎の授業実践を行った。過去に行われた PISA テストの問題を筆者が抜粋して地学基礎受講者に出題した。地学基礎受講者は第3学年である。生徒の解答から現状の記述力の把握と記述の特徴を把握した。また化学基礎では、教師と生徒の良好な関係づくりと記述意欲の把握を行った。筆者は授業時の生徒の呼び方や当て方を工夫することで良好な関係を築いた。物理基礎では、引き続き教師と生徒の良好な関係づくりを行いながら、授業内で記述問題を出題した。PISA テストの回答から生徒の回答には、理由・根拠がほとんど記述されていなかった。そのため物理基礎授業内での記述問題では、「なぜそのようになったのか」「どうしてそのように考えたのか」などの理由・根拠に関する問題を多く出題した。また初回授業時と最終授業時にアンケート調査を行い、生徒の記述意欲や記述力の比較を行った。

## 3. 研究結果

日本の高校生の記述力が低い要因として挙げられていた無回答率の高さは、日頃の授業内で声掛けを行うことで改善することができた。さらに教師と生徒が良好な関係を築くことでさらなる改善が見られた。また生徒は、理由や根拠を記述することを苦手としている生徒が多い。しかし、グループワークやペアワークの際には、会話形式の話し言葉ではあるが、理由や根拠を述べている生徒は多い。このことから言葉の文字化を苦手とする高校生が多いと筆者は考えた

生徒に行ったアンケート調査や記述問題の結果から、学習内容を理解することより暗記に頼っている生徒が多かった。学習を暗記に頼ることで、暗記していない問題は、考えることを諦めてしまい、無回答になるという悪循環に陥ってしまうため無回答率が上昇する。

## 4. 今後の課題

本研究では、生徒の無回答率の低下を実現することは成功したが、記述問題の正答率に関しては大きな改善は見られなかった。そのため今後は、言葉の文字化に焦点を当て、さらなる記述力向上を促す必要がある。

また生徒に学習を暗記ではなく、理解することの重要性を伝え授業を行うことで、記述問題に取り組む意識や記述量の増加、言葉の文字化につながると考える。